

ま

じ
め
さ
ら
に
キ
ラ
リ
ッ

●DITのオープンキャンパス、夏も秋も大盛況！
●AO入試から2007年度・DIT入学試験がスタート！
●DIT現代GPの10プロジェクト
●Seven Years of Passion
●アメ短での経験はまさにプライスレス！



写真提供：アルバム委員会

CONTENTS

- オープンキャンパス
- アメリカ短期留学
- AO入試
- 開かれた大学
- DITのグッドプラクティス
- やるじゃんトピックス
- Another Real Face
- 新任教職員紹介
- トコトン先生
- きょうだい・親子でDIT☆



次をつくる人をつくる

大同工業大学

夏の オープン キャンパス!

7月23日(日)、滝春キャンパスで、オープンキャンパスを開催しました。小雨混じりの天候にもかかわらず開始30分前には、300人収容のゴビーホール、200人収容のサテライト会場ともに溢れ、第2サテライト会場への案内となるほどの盛況なスタートとなりました。その熱気の中、開会の全体説明会では、澤岡昭学長の新生DITチャレンジ宣言に続き、井上茂樹副学長から、沿革、産業界との絆、教育活動実績・評価、2007年度入試など参加者に対して関心の深い内容が紹介されました。

本学のオープンキャンパスは、他の大学の自由見学形式とは異なり「進路選択のための確かな支援」をテーマに、各学科・専攻で選りすぐられた「最新情報と次代の技術」を実際に体験してもらい、「学科選びや入学後の学修プラン」に役立つようプログラムされています。

参加した生徒たちは、機械工学科の「自動車開発のトレンド」、「燃料電池の研究室公開」やロボティクス学科の「自律移動ロボット」など、各分野で今、話題となっている数々のテーマを取り入れたミニ講義・模擬実験から、「ものづくりの魅力」を一層深める機会となったようでした。

機械工学科 機械工学専攻



機械工学科 先端機械工学専攻



速報!

DIT秋のオープンキャンパス(10/1開催)は、どしゃぶりの雨のなか、405人もの方々に参加していただきました。

昼食「喫茶」



学長挨拶



昼食「学食」

機械工学科 機械工学専攻 先端機械工学専攻



コンピュータで3D製図に挑戦!

電気電子工学科



電気・電子回路の
体験実習



ロボティクス学科



レゴを使ったロボットコンテスト



建築学科 建築専攻・福祉環境専攻

実験実習
「力と形」



ロボティクス学科



建築学科

建築専攻・福祉環境専攻



情報学科

コンピュータサイエンス専攻
情報ネットワーク専攻



電気電子工学科



都市環境デザイン学科



情報学科

メディアデザイン専攻



都市環境デザイン学科



調査結果を
発表してみよう



AO入学試験から
2007年度DIT入学試験

スタート!!

8月22日(火)から24日(木)の3日間、体験授業を通して志願者の能力を見極めるAO入試を行いました。

DITが誇る燃料電池、自動車、ロボット、電気、建築、都市計画、情報ネットワーク・デザインについて講義・実験・実習、またキャンパスを飛び出して中部国際空港(セントレア)の環境デザイン見学会、更にはプレゼンテーションも…。このように3日間、かなりハードな入学試験となりましたが、緊張の中に時折見られた生徒たちの笑顔がとても印象的でした。

情報学科

コンピュータサイエンス専攻
情報ネットワーク専攻



ワンチップマイコンの
プログラミングに挑戦しよう



情報学科

メディアデザイン専攻

映像&音楽製作



『DIT現代GP』

競争的教育環境の下、文部科学省では、現在幾つかの重点施策が実施されています。その中の1つに、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（以下“現代GP”〈Good Practice〉）」と称する施策があります。

本学では、この施策が実施された平成16年に、建築学科を中心として「工住混合地域の街並形成へのデザイン提案」と題する取り組みを、現代GPの「地域活性化への貢献」部門に申請し、激戦の末、選定されました。

本学の取り組みの特徴は、建築設計や意匠デザイン等の授業に費やされている膨大な学生の時間とエネルギーを、学生の成績評価のみに使用するのではなく、都市問題や街づくりに関する課題を授業に取り入れることにより、教育を行うと同時に社会貢献も行うことを意図したところにあります。

●Project⑧「商店街のイメージポスターのデザイン提案と制作」

川戸和英研究室（情報学部／情報学科・メディアデザイン専攻）の卒業研究の一環

衰退しつつある地元商店街を活性化するためのポスターデザイン提案を課題とした。

閉まったままのシャッターが目立つ商店街のポスター企画は、どこでも難題なのだが、学生たちは、実際に商店街を歩いて感じたことをポスターに込めた。

7月27日（木）、笠寺観音商店街振興組合 伊藤理事長、大磯通商店

街振興組合 稲熊理事長、そして名古屋市市民経済局地域商業課 商店街係 安田主事を迎えてのプレゼンテーション。学生たちは緊張より、自分の作品が大学内だけに留まることなく、大学外（地域）に発信し、貢献できるという喜びの方が上回り、「水を得た魚」の如く、イキイキとした表情で目の前のお三方に挑んだ。

その結果、「ネック（短所）→持ち味（長所）」へと発想を転換する、今までの現場にはなかったスタイルが新鮮でいいとの評価を得た。



西村くんの作品



壁谷浩太くん (03B)



猿渡新悟くん (03B)



長谷川治輝くん (03B)



上阪友輝くん (03B)



壁谷尚記くん (03B)



西村尚悟くん (03B)



上阪くんの作品



発表者：三輪圭吾くん (03B)



川戸和英指導教授



伊藤理事長・稲熊理事長

DIT現代GPの10プロジェクト

◆周辺企業からの依頼課題

- ① 循環型外部トイレの上屋のデザイン提案(トイレ博で実現)
- ② 「工場の境界沿い再考」デザイン提案(4つの工場主に図面・模型で提案)
- ③ 建設廃材を活用したベンチのデザイン提案と製作(実際に製作し、万博会場およびサテライト会場に設置)
- ④ 建設廃材を活用したヨット修理工場の改修計画および大学内学生ホール前の有効利用デザイン提案(デッキの形で実現)
- ⑤ コンクリートポンプ車修理工場の改善計画(図面・模型での工場主への提案)→次ページへつづく

●Project⑩「住宅の設計提案」

4月下旬、南ホームニュースに「大同工業大学 工学部 建築学科の学生が、南区内の一般住宅の設計を無料でご提案します」とニュースリリース。ここからProject⑩「住宅の設計提案」が始動した。

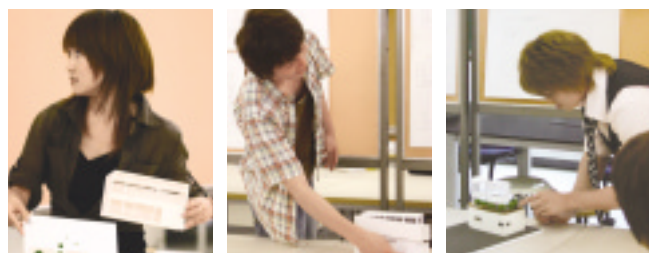
何件か応募があった中から選ばれた施宅に学生全員で出向き、建設予定地で直接住宅設計への要望を伺い、大学に持ち帰った。この時学生たちは授業(建築設計Ⅰ)の一環として建設予定地へ向かったが、「施主は自分の提案を参考に自宅を建てることを考えておられる」という、今までに無い目標到達点を知り、モチベーションを高め、いつし

か自主的に建築予定地を訪れるようになった。自分の提案が設計図や模型に留まることなく、実際の「家」として形になることを夢みて。

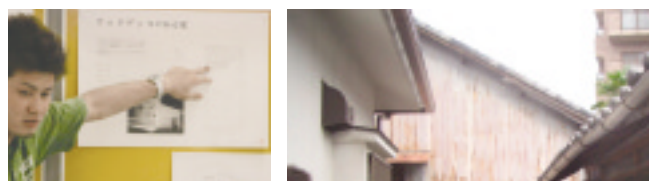
7月20日(木)、施主を迎えてのプレゼンテーション。学生は光・水・癒し・家族交流・プライバシー等々、各々が重視する点を5分から10分で提案し、質疑に一生懸命答えた。そのスタイルは提案ディスカッション型授業であった。結果、「感動した!若い感性に直接触れられることができて、非常にうれしい!」と施主から言葉をいただいた時、学生たちの表情はキラリッと輝いていた。



敷地の現況写真



模型を使って発表をする 山田葉子さん(04A) 模型を使ってプレゼンをする 杉山博紀くん(05A) 模型を使って説明をする 曾我貴宏くん(05A)



図面の説明をする 西川晃司くん(05A)



施主の斉藤さんに説明を受ける学生



現地見学をする学生



磯部くん(05A)の「内に開かれた家」模型



諏訪くん(05A)の「光の箱」模型



岩瀬くん(05A)の「天井の高い家」模型



加藤くん(05A)の「木を囲む家」模型



入波平さんの「映る空間」模型



古旗くんの「スネークハウス」模型



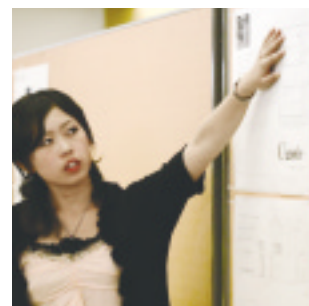
山田さんの「リ・住宅」模型



模型の説明をする 古籐康教くん(05A)



図面の説明をする 入波平さやかさん(05A)



図面の説明をする 渡辺明里さん(05A)



施主の斉藤さんに説明をする 土井雅裕くん(05A)

写真提供：教務システム開発プロジェクト 児玉和雄

◆地元行政や公益企業からの依頼課題

- ⑥名鉄大同駅前エコ広場エコ街路計画(現在建設中の駅舎デザインに一部採用)
⑦風車や太陽光エネルギーを利用した自立型街灯のデザイン提案と製作(大同駅前および大学キャンパス沿道に設置計画(現在進行中))

◆地元商店街・住民からの依頼課題

- ⑧商店街のイメージポスターのデザイン提案と制作および商店街マップデザインの提案と制作(実際にイベントで使用)
⑨新幹線建設に伴う住宅移転跡地利用計画の企画立案(図面・模型での移転住民への提案)
⑩住宅の設計提案(現在進行中)

●Project番外編「自立型街灯のデザイン提案」

4年生・前期の授業「建築デザイン実習」での試みをここで紹介する。

課題は「自立型街灯のデザイン提案」。優れた提案は実際に制作し、滝春キャンパス内に設置し、更には製品化にもつながる可能性を持った授業である。学生のモチベーションを高めるとともに、実際の仕事に近い形でデザイン制作体験を行う教育として実施した。

7月20日(木)、最終授業でのプレゼンテーション。全員(58人)が1分間、作品の特徴をプレゼンし、審査員(教職員8人)が独創性に富むと思われる作品を提案した学生8人を投票形式で選出した。

その後、この8人による最終の5分間プレゼンテーションが実施され、「風にゆれる、ススキ型癒しのオブジェ」「駐輪機能付きオブジェ」「吸殻入れ機能付きオブジェ」等々、学生から飛び出した一石二鳥型オブジェの提案に、「地域貢献と大学授業のコラボ」企画の成功を確信する結果が得られた。

非常勤講師で
グラフィック
デザイナーの
真野由紀子先生



六角形の美しい発光体を
提案する一木伸太郎くん(03A)



ソーラーシステムを組み込んだ
時計を提案する渡邊茂くん(03A)



増殖する電子板を提案する
田中誠くん(03A)



照明と灰皿を融合させた
水本日和さん(03A)



雨の水滴を感知して発光する
照明を提案する奥村竜幸くん(03A)



ぼんやりとした柔らかい光を
提案する鈴木佑樹くん(03A)



人工的でありながら温もりの
感じられる照明を提案する
角田貴哉くん(03A)



ゴミ箱×照明作品を提案する
塚本健二くん(03A)



田中くんの「増殖・寄生」を
表現した模型



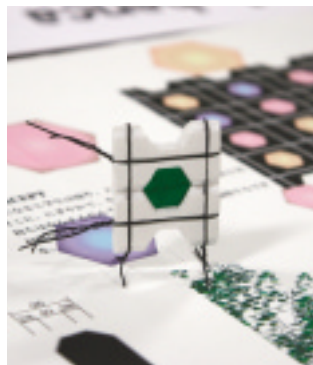
水本さんの
「Bright Ashtray」模型



塚本くんの
「Human Trash Can」模型



奥村くんの
「雨とガラス、そして光」模型



一木くんの「HEXAGON」模型



発表会の様子

写真提供：教務システム開発プロジェクト 児玉和雄

大学で仕事をしていると、様々な学生と話ができるチャンスがあり、楽しい。特に趣味の話は面白い。車・料理・買い物・スポーツ・カメラ…etc. その話のなかで、驚かされることも多々ある。ということで、皆さんにそんな学生の「Another Real Face ～もうひとつの素顔～」を紹介していきます。

第1回の今回は、ボウリングをさせれば、「公式ゲームでパーフェクトゲーム17回達成」のセミプロ、ゴルフをさせれば、「初ラウンドでスコア98」、全国規模の塾講師をさせれば、塾生増に大いに貢献したとして「優秀教室賞」受賞と非凡な才能の持主、山崎吉範くん(00M)に登場願いました。様々なことにチャレンジしすぎるあまり、大同生活は7年目…。そんな山崎くんのサッカーに対するPassion(情熱)をお伝えします。

彼のサッカー記事は以前、雑誌「ベストストライカー」に掲載されました。

前編

Seven Years of Passion

00M267 山崎 吉範

第1章 サッカーとの出会い編

1990年イタリアW杯が開催されているこの年、私は小学校の2年生になっていた。その頃の日本は、サッカーというスポーツに対して他の国に比べて関心は低かったのではないかなと思う。私も中日ドラゴンズの立浪選手に憧れて、毎日白球を追いかけていた。

しかし、たまたま入った電気店のテレビで流れていたW杯の試合で、イタリア代表、“フランコ・バレージ”というサッカー好きには、歴代のイタリア代表の中でかなりの知名度を誇るほど有名なDFの選手を見て、それまでサッカーを知らなかった私にすさまじく強烈で大きな印象を与えた。

これが私とサッカーとの出会いだった…

第2章 サッカープレイヤー編

イタリアW杯のあの強烈で大きな印象を受けてからサッカーに非常に興味を持った。しかし、周りの友達とする外での遊びと言えば野球。サッカーをやろうとする者はあまりいなかった。

そんな私にも転機がおとずれる。そう転校である。

小学5年の春、今住んでいる三重県の小学校に転校した。転校先での初めての休み時間に見た光景は、文字通り“サッカー——色”のグラウンドだった。

この頃の三重県は、四日市中央工業高校が全国高校サッカー選手権大会で優勝しただけあってサッカー熱が極めて高く、その時のメンバー「三羽鳥」と言われていた、小倉、中西、中田の3選手は皆の憧れだった。

時は流れ中学生になった私は、後に大きなターニングポイントになる人物と出会っていた。

小学校の時のサッカー熱をそのままに中学でサッカー部に入部した私は、残念ながら下手だった。しかし、そんな初心者にもきっちりと指導してくださる監督がいた。この監督がいなかったらやめていたかもしれない、中学3年間を頑張ってきたのもこの監督のおかげだ。

その監督は、現在日本代表選手の育成に携わっている。

練習は厳しい事もあったが、監督の指導はそれを忘れさせるくらい楽しくもあった。

そのまま無事に中学を卒業し、高校生になった

私は当然のようにサッカー部に入部し、サッカーを続けるつもりでいた。

しかし、入部してみたものの練習に参加しているのは10人以下。心配していると大会が近づくにつれて人がだんだん集まってきていた。私の高校はレベル的には中の下。しかも近くにはあの四日市中央工業高校がある。

練習試合をしてはもらえるのだが相手は当然2軍。それでも負ける。しかも大差で。

結局1,2年の時の選手権はすべてが地区予選落ち。練習を長時間やっても結果は同じだった。

2年生の選手権大会後の冬、高校の二つ上の先輩が母校に様子を見に来てくれた。その先輩は単身でブラジルに留学していたほどサッカーがうまく、そして好きだった。

その先輩に相談してみた。

私「周りの高校より練習しているのになぜ勝てないと思います？」

先「メンバーにもよるけど“戦術”はしっかりしてる？」

私「“戦術”ってのはフォーメーションとかですよ？」

先「試合の組み立て方やフォーメーション、選手の役割とかたくさんあるよ」

その言葉がきっかけで、初めてサッカープレイヤーからサッカーマネージメントに興味に移ったような気がしている。

第3章 サッカーマネージメント編

まず初めに始めたことは、より多くのサッカーの試合を見ることからだった。高校サッカーの試合の合間に皆が休憩しているときでも他校の試合を見て気づいたことなどをメモにとる。

半年間でこのメモは大学ノート4冊になるほどたくさん集まった。そして迎えた3年の最後の予選。

いままでは監督の話を聞いているだけだったが意見をしてみた。監督も最後の大会だから好きにしてみなさいとのことだったのでいろいろと細かくチーム内で役割を分担した。

結果、予選リーグにはあの四日市中央工業高校がいるのにも関わらず、決勝トーナメントに駒を進めることができた。しかもベスト16にまで進むことができ、改めて“戦術”の大切さを知った。

第4章 イタリア編

大学に入学し当然のようにサッカー部に入部する予定ではあったが、通学に1時間半かかるのと授業も大変だったため部には入部せず、その頃から流行りだしていたフットサルのチームを自分で作った。フットサルではもちろん選手としてやりたいのもあったが、何よりも戦術に触れられるのが非常に楽しく、勉強になった。

そんな時間を過ごしていた時に高校のサッカー部の監督から連絡が入った。

監「今年のサッカー部は今までで最弱かも知れない」

そこで、高校の試合を見に行った。対戦相手はなかなかの強豪だったようで前半だけで0-5。ベンチで選手たちにアドバイスしてハーフタイムを終えるとそこに

謎の人物「いいアドバイスだね。元気でやっているか？」との声が。

中学時代お世話になったあの監督だった。

監督と懐かしい話をしていると

監「今度イタリアに研修に行くんだけど、もしコーチングの勉強をしたいんだったらついてくるかい？」

私「もちろん、ついていきます。」と即答した。

大学の夏休みと丁度かさなってくれたのでその機会を使って勉強することにした。

イタリアでまず最初に訪れたのは、名門“ACミラン”。ACミランの練習を2,3日見た後、ACミランのジュニアユースチーム(中学生～高校生)の試合を見て勉強。さらに中田(英)選手(ペルー時代)の試合も現地で観戦。

続いて訪れたのは、こちらも名門“ASローマ”。このチームでは、主にDFとMFとの間のスペースについて勉強。

最後に訪れたのは、“インテル”。あのロナウドや、アルバロ・ロコバなど世界有数の選手が揃っていて、一人のサッカーファンにとってはたまらなかった。

また、インテルを訪れた際にはR・バジジョに会うことができた。残念ながらすでに引退してしまっていたのですが、「ファンタジスタ」という言葉を生み出した人物だけあって独特のオーラを放っていた。当然私は、大、大、大ファンである。

そこで起こった1つ目の奇跡。直接本人と会って話ができるという驚きの出来事。

さらに2つ目の奇跡。話をするにはこの控え室では落ち着かないらしく、「家へこないか」とのお誘い。その日の夕方、車、フェリーを乗り継いでシチリア島にある自宅に案内された。

そこでは、たくさんのサッカーの話を聞くことができて一生の宝物になった。

イタリアへ行ったことは強豪3チームの練習風景、実際のセリエAの試合を生で見ることができ、更にはうれしい奇跡もあったので非常に中身の濃いものとなった。

第5章スペイン編、第6章ドイツ編、第7章ドイツW杯観戦編は次号へつづく。



トコトン先生！ 大活躍！

澤岡昭学長vs 未来の宇宙飛行士!?



6月24日(土)、東京都台東区生涯学習センターで大同工業大学同窓会関東支部25周年の記念イベントとして「台東区から宇宙へ僕の宇宙ものがたり」と題し、小学生を対象に講演。



講演終了後はサイン会を行う程、大盛況!

7月15日(土)、南山大学で「第18回愛知サマーセミナー」のトキメキ☆特別講師陣(他メンバー: 安藤和津氏(エッセイスト)・秋山豊寛氏(元宇宙飛行士)・ギャオス内藤氏(タレント)・小野寺歩氏&林弓枝氏(トリノ五輪カーリング・日本女子代表)他)の一員として、中高生およそ60人に講演。タイトルは「宇宙へ行こう!ニッポンのチカラ」



写真提供: (財)日本宇宙少年団

8月25日(金)、愛知県労働者研修センター・サンパレア瀬戸で「スペースフレンズ2006愛知」に参加している小・中高生およそ150人に講演。この講演はあの「宇宙戦艦ヤマト」や「銀



河鉄道999」でお馴染みの漫画家・松本零士さんも参加し拝聴された。

すべての講演において驚かされたことは、「子どもたちの質問」

とにかく、多くて、面白くて、斬新!

澤岡昭学長が解答に詰まってしまう場面も...

向井さんたち宇宙飛行士も子どもの頃、このような講演に参加したことがきっかけで宇宙を目指したという話から、学長は「この中から未来の宇宙飛行士が生まれるといいですね」とうれしそうに講演を終えました。

「無限の可能性が子どもたちと宇宙にはある」ことを実感できた講演会となりました。

International Workshop on Preserving and Regenerative Meniscal Surgeryに参加して

機械工学科 先端機械工学専攻 教授 小林 正典



ワークショップの行われたReissensburg城

7月13~15日にドイツで開催された上記研究会の招待講演を受け出席して参りました。Meniscalとは、「半月板の」という意味です。半月板は、よくJリーグやプロ野球の選手が損傷して話題になる膝関節内の軟骨組織ですが、自己修復能に乏しいため一旦大きく損傷すると多くの場合切除する以外治療方法がありません。しかし、半月板を切除した膝は、長年のうちに関節を傷つけ変形性



会場受付の前で

関節症を引き起こして歩行障害を来します。従って、損傷された半月板の再建方法の確立は、整形外科領域で大きな研究対象となっています。

今回のワークショップは、ウルム大学バイオメカニクス研究施設の主催にて、大学所有の古城Reissensburg城で行われました。内容は、半月板の再建治療に関する全ての事項で、バイオメカニクスや分子生物学の基礎研究から実際の臨床手術方法、さらに現在研究段階にある治療法までの様々なテーマのもとに活発なディスカッションが行われました。

僕の依頼講演は、以前に行っていた「ハイド



会場内で

ロゲルを使用した人工半月板の開発」です。現在世界的に見ても人工材料で半月板の再建を試みて成果を挙げている研究者は非常に少なく、事実この人工半月板のテーマでの講演者は僕のみでした。

現在欧米では、再生医療による組織置換材

料の開発と半月板移植(死者からの半月板の移植)の2つが主に研究されていますが、安全性を第一とする日本の医療情勢では、これらの治療はまだ実施困難と考えられます。人工半月板にもまだ課題はありますが、他と比べても多くの利点と将来性のある治療法と考えられ、現在当研究室では京都大学、大阪医大と連携して実用化に向けての研究を進めている段階です。

学会では他国の研究者や臨床医と交流を深めることができ、さらにライン川クルーズ観光等で久々の海外旅行を満喫してきました。本学着任後色々雑用に追われて少し気分が滅入っていましたが、これを契機に気分も新たに頑張りたいと思っています。



主催者Prof.Claes と関節鏡外科の権威Dr.Johnsonと講演者および一般発表者・参加者での集合写真

工学部 ロボティクス学科 全教員・技術職員 ロボット操作講習を修了

— 教職員の更なるスキルアップ目指して —

工学部 ロボティクス学科 講師 浅井 淳

ロボティクス学科の教員と技術職員の全員が、産業用ロボットの操作に関する講習を修了しました。

ロボティクス学科では今春の開校に合わせ、最新鋭の産業用ロボットの実習機を6台導入しました。

そして、学科の教職員の誰もが、このロボットの操作を円滑にできるよう、時間をやりくりして9月までに順次講習を受講しました。これは、一定の操作業務レベルにあることを示すだけでなく、労働安全衛生法に基づく「産業用ロボットの教示等の業務に係る特別教育」を修了して教育における安全管理が高まったことを意味します。

今後の実習指導に期待してください！



ロボット講習修了記念撮影



ロボット研修修了式

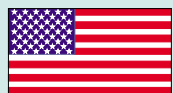
大東憲二教授（工学部／都市環境デザイン学科） 細見寛氏（国土交通省）と 防災対策について対談。

平成18年6月28日（水）ナゴヤキャスルプラザ3F 亀の間にて、国土交通省中部地方整備局河川部長 細見寛氏と、大東憲二教授の「防災対策座談会」が行われました。

地盤工学を専門とし「東海三県地盤沈下調査会」に参加する大東先生と、「中部地方の天変地異を考える会」をスタートさせた細見氏が、映画「日本沈没」を観た感想も交え、中部地方の防災対策を熱く語り合いました。

対談の内容については「毎日新聞」の紙面で大きく紹介されました。





第28回 アメリカ短期留学

■ 2006/08/07

ユージン空港 到着!

初めての海外そして長旅に
皆の顔も少し疲れ気味。



■ 2006/08/07

リスニングテスト…

オレゴン大学に到着後早速、
リスニングテスト。
この結果を基に、翌日から自分のレベルに
合ったクラスで授業を受けることとなる。



■ 2006/08/08

パワーズ先生 登場!

早速パワーズ先生に
バスの乗り方を教わりました。



How to bus



■ 2006/08/09

Conversation&American Culture



月、水、金にはオレゴン大学の学生を教室に招き入れ、アメリカと日本
の文化の違い等をテーマにディスカッション。



■ 2006/08/10

Conversation Partners



週に2回、オレゴン大学の学生と少人数に分かれて会話を楽しむ授業
があります。

この時のテーマや場所は自由。ゲームをしたり、芝生に腰掛けたり、
CAFモガ話すこともあります。普段学生ホールで友達と雑談している、
そんな雰囲気です。



■ 2006/08/12.15

自由時間だ!



野球場にて



スタジアムの前にて

フットボールスタジアムの見学に行ったり、ユージンに本拠地を構える
1A所属のエメラルズの野球観戦に出かけました。



■ 2006/08/17

Sports Activity



コーディネーターの学生2名と今年は、サッカー、バスケ、フリスビーを
楽しみました。



■ 2006/08/18~20

ドキドキの ホームステイ。



週末に2泊3日でホームステイに出かけました。ドキドキのホストファミ
リーとの対面です。素晴らしい思い出ができました。



■ 2006/08/22

Ryan先生

一番お世話になりま
した。



最後の授業にて

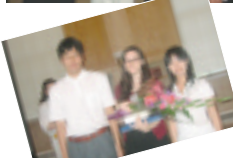




今年も8月7日(月)から9月3日(日)までの全28日間、アメリカ短期留学が実施されました。
参加者は16名。昨年に引き続き少人数でしたが、昨年を上回る成果を上げて全員が無事に帰国しました。



■ 2006/08/22 涙の修了式。



少しかしこまって、3週間の感謝の思いを伝えました。式には我々に関係してくれたほとんどのスタッフが出席してくれ、思わずうるうる来てしまいました。



■ 2006/08/26

休日…。



Honeyman state park



Amy&Sarahとユージンを一望できるSKINNER BUTTEやオレゴンコーストに出かけ、乗馬などを楽しみたくさんの思い出が出来ました。



■ 2006/08/28

オレゴンで 最も有名な湖だ!



クレーターレイク。
その美しさに心を奪われました。
いよいよサンフランシスコに出発。
オレゴン大学のみんなありがとう!



■ 2006/08/30 サンフランシスコでは…

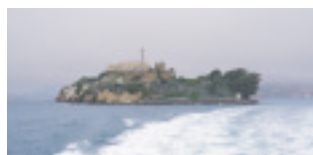


実に美しい街でした。ユージンと違い
大都会に少々戸惑いましたが、
皆自由時間も満喫したようです。



■ 2006/09/01

映画「THE ROCK」 でお馴染みの…



監獄の島「アルカトラズ」にも渡りました。



今年は生活面、学習面を通して初めての試みが数多くありました。

【生活面】

学生寮での1ヶ月の滞在は、2人1組で階も別々でした。当然隣の部屋はアメリカ人や他の国々から留学している学生です。初めは戸惑っていた本学の学生も、2、3日もすれば彼らと友達になり、片言の英語でコミュニケーションをとり毎晩のように遊んでいました。最後の日には、お互いの物を交換したり、サインをし合ったりと別れを惜しんでいました。もしかしたら、この経験が一番の英語の勉強になったかもしれません。良い思い出となったことでしょう。

【学習面】

大きな挑戦がありました。アメ短では午前中に2コマ授業があります。今年は1限目の授業はAEIのレギュラークラスに混ぜてもらいました。AEIとはオレゴン大学内にある英語を専門的に教える機関で、ここには様々な国から多くの学生が英語を学びに来ています。本学の学生もその中に入れてもらい、サウジアラビア人、韓国人、台湾人等の学生と共に英語を学習しました。クラスはレベル別に分かれており、リスニングテストの結果でそれぞれに適したクラスに分けられました。初日の授業後には多くの学生が弱音を吐いていましたが、レギュラークラスの他国の学生達がとてもフレンドリーに受け入れてくれたことにより、徐々に緊張もほぐれ、最後には皆の前で英語でのプレゼン発表が出来るまでに成長していました。3週間たった頃には皆が逞しく見えました。

もし普通に生活していたらサウジアラビア人の英語を聞いたり、彼らと友達になる機会なんて無いでしょう。ここでもまた、多くの友達が出来たようです。

引率者 森川博光(教務室)

**アメ短での経験はまさに priceless!
是非、みんなにも経験して欲しいと思います。**

A・Aオープン講座

講師：日立ハイブリッドネットワーク株式会社
取締役社長／若井勝郎 氏

6月26日(月)、ゴビーホールで「IT業界での経験とコンピュータ組込み製品の開発動向」と題して、情報学部1年生および学外の方、およそ150人に対してご講演いただきました。

参加者の感想より

■「コンピュータは幅広い分野で使われている」とよく言われていますが、本講座で初めてその「幅広い分野」の具体例を知ったように思います。私たちが大学で学ぶことを何に生かすかがわかった気がします。



■技術の発展は日進月歩。その速さについていくためにまず、学校で基礎・基本を学び社会へ出るための下準備を整えていきたいと自分自身の気持ちをこの講座で更に強いものにできました。

■正直1度も聞いたことがない用語がたくさん出てきました。将来IT業界で活躍したいと考えているので、今後情報処理関係の資格にチャレンジしていこうと決めました。

講師：早稲田大学環境総合研究センター
参与客員研究員／石 太郎 氏

7月3日(月)、D0311講義室で「自動車とITS ―ITSが拓く新しいモビリティの時代―」と題して、機械工学科の1年生および学外の方、およそ250人に対してご講演いただきました。

「最先端の情報通信技術を用いて人・道路・車両とを情報でネットワーク化し、交通事故、渋滞など道路交通問題をカーナビやETCを駆使して解決に導くことを目標とする新しい交通システム」という身近な講演内容が、興味を惹いたようで、参加者全員が熱心に聴き入っていました。

参加者の感想より

■愛知県が「ITS」の先進都市であることを知りました。自動車の生産技術だけではなく、情報技術も高いことがこの講座でわかりました。



■年間交通死亡事故数が愛知県は全国で最悪だとラジオで聞きました。自分自身が安全運転への高い意識を持つことが一番大切だと思いますが、それを助けてくれるITSの普及と発展を大いに期待したくなりました。

佐藤達生教授(工学部／建築学科・建築専攻) 名古屋市西生涯学習センターでの 講座が「正統派の名講義」と大絶賛!

5月17日から7月5日までの7日間(1日120分)、名古屋市西生涯学習センターで佐藤達生教授が講座講師を務めました。佐藤先生の著書「図説 西洋建築の歴史 美と空間の系譜」がきっかけで依頼されたとのこと。

講座名は「西洋建築の歴史～ギリシア・ローマから新古典主義まで～」。

西洋建築の歴史をわかりやすく解説しました。40人定員のこの講座に希望者は65人と大人気。参加者の負担を無くすため、市販されているテキストは使用せず、毎回手作りで講座を進めるその佐藤先生のスタイルが参加者のモチベーションを高めたようでした。

講座終了後のアンケートから

- これからの海外旅行が楽しみになった。
- 先生の本を購入し、更に知識を確かなものにしたい。
- 古い頭でも新しい勉強ができてうれしかった。
- 簡潔なテキストにより講義が進められ、素人なりに西洋建築の概念を知ることが出来た。
- 講義のはじめに、前週を復習するコーナーを設けていただき大変助かった。となく忘れ易いだけに記憶が確かめられて効果的であった。
- スライドを多く使って、建物の具体的な姿をみることが出来、わかり易かった。
- 誠意溢れる指導に感謝しております。多くの資料を頂き、有難う存じます。
- 正統派の名講義!有難うございました。



すくすくこども健康教室「肥満教室」 ～夏休みダイエット大作戦～

7月15日(土)、すくすくこども健康教室～夏休みダイエット大作戦～を開催しました。

講師は水野義雄教授(教養部／保健体育教室)と大同病院小児科の3人の先生、そして本学硬式野球部員が務め、「講義」と実際に体を動かす「レクリエーション」の2部構成でダイエットを支援しました。

講義では、「カゴメ・紫の野菜ジュースを使ったプリン作り」、「普段食べているお菓子にどれくらい砂糖が入っているか?」、「カロリーはどれだけあるのか?」などを、実際に販売しているお菓子を使って説明しました。チビッコたちよりもむしろ保護者のみなさんが興味深く聞き入っていました。

その後、講義室から体育館へと場所を移し、レクリエーションを行いました。「誰が一番最初にドラゴンボールをゲットできるかな大会」や、



大きなボールを使って、「チーム対抗ボール転がし」など、チビッコたちは遊びながらいっぱい体を動かして、いい汗をいっぱい流していました。

運動後は、講義のときに作った、

冷たいプリンを、みんなでおいしく食べました。

健康教室終了後もまだまだ走り回ってはしゃいでるチビッコもいて、笑顔の耐えない楽しい教室となりました。



地域連携講座 名古屋市南区役所共催 親子ものづくり教室

7月22日(土)、本学滝春キャンパスで、親子ものづくり教室を開催しました。

参加者みなさんが楽しみにされていたようで、始まる30分以上も前から受付に来て、家族ではしゃいでいました。

8年目の今回は、LEDを使った『光るおもちゃ』(講師:工学部/電気電子工学科 西村政信講師)、電気で動く『電気ふしぎオモチャ』(情報学部/情報学科・コンピュータサイエンス専攻 愛知久史助教授)、アルミを溶かして作る『オリジナル置物』(工学部/機械工学科・機械工学専攻 青山正治教授)、竹でつくる『トンボがえる』(外部講師/渡辺先生)の4コースを企画しました。

親子ものづくり教室だけあって、お父さん、お母さんの手腕が問われる...!?作業も随所にみられました。

教室終了後は、自分の作品を見せびらかして自慢している子や、大事に抱えて持って帰る子など、それぞれ気に入った作品になった様子でした。



今回の教室も、親子の絆をさらに強いものにできた「気持ち良くて、うれしくなっちゃう教室」となりました。



今年もこの季節がやってきた!! 第35回柴田・七夕祭り



8月14日(月)・15日(火)と柴田・七夕祭りが開催されました。今年も本学大学祭実行委員会がイベント広場を任せ、ステージ企画を、また吹奏楽団は振興組合加盟店地域のパレード&七夕祭り演芸場での舞台演奏と、それぞれ祭りを盛り上げ、笑顔が溢れる憩いの場を演出していました。



松岡陽子講師(教養部/教職教室) 知多市ふれあい講座の講師に



8月22日(火)、知多市ふれあいプラザで松岡陽子講師が講座を務めました。

子供が親を特別の対象として形成していく絆-愛着-について、発達心理学の観点からVTR資料も織

り交ぜ分かり易く、しかも科学的な見地に立って解説しました。

当日は熱心な参加者が多く、講座終了後も質問が絶えず大盛況でした。

渡邊慎一助教授 (工学部/建築学科・福祉環境専攻) 「西尾市消費生活講座」の講師を務めました

8月30日(水)、西尾市総合福祉センターで、渡邊慎一助教授が「西尾市消費生活講座」の講師を務めました。テーマは「暑さ寒さと住まい」。参加者は27名(全て女性)。「プロジェクターを使用して、わかりやすく丁寧に説明された」と高評でした。実際に家を建てる予定の方がいたこともあって、活発に多くの質問が出されました。



やるじゃん トピックス!!

●ロボティクス学科の新生が大同特殊鋼・知多工場を見学 工学部／ロボティクス学科 浅井 淳

ロボティクス学科新生全員が大同特殊鋼(株)知多工場を見学しました。これは「AA 세미나」科目の一環として、製造現場を実際に見ることで工学への関心を高めることが目的です。6月12日(月)・19日(月)のグループと6月26日(月)・7月3日(月)のグループの2つに分かれ、同社が誇る特殊鋼の溶解、製鋼、鋳造、分塊、圧延、検査など先進的な技術を駆使した工程を間近に見ることができました。学生たちは炉から出てきた鋼材が広い工場内を加工されながら自動搬送される迫力だけでなく、伝わってくる熱さに驚いていました。



見学後の冷たいお茶がおいしく感じられたことはいうまでもありません。

●「読売新聞」が学習支援センターを紹介



7月12日(土)、読売新聞に「中部の教育」として、学習支援センターが紹介されました。

紙面には、その取材日に偶然英語の指導を受けていた工業高校出身の夏目賢志くん(A06)の「工業高校では、授業数が普通科高校の半分ぐらいしかない科目もある。空き時間を使って勉強できるので助かります」と、学習支援センターの存在を喜んでくれているコメントが掲載されました。

●佐藤壮一郎講師(教養部／保健体育教室) ハンドボールU-23男子日本代表チームのヘッドコーチ(監督)として、2006年世界学生選手権大会(ポーランド)に出場



写真右奥：佐藤先生

7月1日(土)から9日(日)までの9日間にわたり開催された2006年世界学生選手権大会で、U-23男子日本代表(23歳以下)ヘッドコーチとして、本学ハンドボール部監督の佐藤壮一郎講師が活躍した。

今回は6月23日(金)から27日(火)まで、フランスで直前強化合宿をおこない、ポーランドに乗り込んだ。

目標は「メダル獲得」。前回のロシア大会では6カ国参加の中、4位に終わった日本チーム、今大会は13カ国が参加。

予選リーグBグループは、ハンガリー・クロアチア・ポーランド・チェコ・グルジアそして日本の6カ国で戦った。

日本チームは、強豪ハンガリー・クロアチア・ポーランドに何と3連勝、ハンガリー・クロアチアにおいては、日本ハンドボール史上初の勝利となった!また地元開催のポーランドに勝利したことで、その後一人で街を歩きづらくなったことから「世界大会での各国の勝利に対する執念」を実感したと佐藤先生は言う。

残り2試合で日本が1勝すれば、ファイナル進出、銀メダル確定の位置まで来たが、残念ながら2連敗。最終戦は、順位決定でAグループ3位のリトアニアに勝利し、最終順位は「ベスト5」であった。13カ国出場の大会規模から考えれば、この成績は、過去最高である。

今回のメンバーは、16人中実業団選手が8人(フル代表候補5人)と過去最強であり、2008年北京五輪の主要メンバーとなることは間違いない。佐藤先生の挑戦は、まだまだ続く。

また、齋藤慎太郎助教授(教養部／保健体育教室)は、ハンドボールU-23女子日本代表チームのコーチとして活躍した。



～本学ハンドボール部の秋リーグ・名古屋インカレでの活躍をみんなで応援に行こう!!～

●大東憲二教授(工学部／都市環境デザイン学科) 「空間情報シンポジウム」で講演

創立25周年を迎える株式会社インフォマティクスは、空間情報システムの普及推進による、自治体業務の効率化やサービスの向上、地域IT産業の活性化を目指し、1996年以来「空間情報シンポジウム」を開催しています。

今回は「次世代の空間情報システムへの挑戦」をテーマに、7月11日(火)の東京会場をはじめ全国21会場で、各界の有識者による講演会を行いました。

7月20日(木)、金沢会場に登場したのが、大東憲二教授。

「PSInSARとGISを用いた濃尾平野の地盤変動特性評価」と題して、人工衛星から照射したマイクロ波の反射特性によって地表面の沈下や隆起を計測する技術(PSInSAR)を用いた濃尾平野の地盤変動観測結果を地理情報システム(GIS)上で整理すると同時に、地域ごとの地盤変動傾向を分析して地盤変動要因の推定を試みた内容の講演を行いました。



●DIT就職指導力の高さをマスコミが評価!(06年春 最新版)



週刊エコノミスト
(2006.8.1号)
「就職率ランキング250」
→**全国13位**



読売ウィークリー
(2006.8.13号)
「就職 本気に強い200大学」
→**全国13位**

●**嶋嶋泰教授(工学部/建築学科・建築専攻)、佐藤義久教授(工学部/電気電子工学科)、川戸和英教授(情報学部/情報学科・メディアデザイン専攻)、横山弥生助教授(情報学部/情報学科・コンピュータサイエンス専攻)**が日本工学教育協会賞を受賞

7月28日(金)、北九州国際会議場で本学現代GPの論文「地域からの依頼に対する提案型教育の試みとその評価」が日本工学教育協会賞/論文・論説賞を受賞しました。

この賞は、協会誌に掲載された工学教育ならびに技術教育等の分野における優秀な論文・論説に授与されるものです。

本学における「学生のモチベーションを引き上げる教育指導スタイル」が今回の受賞に繋がりました。



●**平成18年度 在学学生学業特別奨学生・在学学生スポーツ特別奨学生授与式/学生室**

平成18年度より、大同工業大学の奨学規程に一部変更があり、大学に入学後、勉学やスポーツに励んだ学生に対して、大学として支援をすることを目的とし、新たに在学学生学業特別奨学規程と在学学生スポーツ特別奨学規程が新設されました。

在学学生学業特別奨学生は、2,3,4年次生を対象に、学業成績の優秀な学生に年間22万円を学納金より免除する奨学制度です。なお、採用人員は各学科1名または2名を採用する予定です。

在学学生スポーツ特別奨学生は、本学公認のスポーツクラブに所属しており、世界大会等の選手に登録され、顧問及び監督の推薦を受けた学生に対して、年間22万円を学納金より免除する奨学制度です。



本年度は、在学学生学業特別奨学生が27名、在学学生スポーツ特別奨学生が1名の計28名が採用され、8月8日(火)、ゴビーホールで授与式を行いました。

今後、学生達がさらに勉学・スポーツに励んでくれることを期待し、よりよい学生生活になってくれることを願います。

●**岩木呂卓巳講師(情報学部/情報学科・メディアデザイン専攻)**がNHKニュース「おはよう日本」に登場!

8月12日(土)、NHK「おはよう日本」の特集コーナーに、岩木呂卓巳講師が登場しました!



「音で体感、昆虫の世界」と題して、参加した親子連れらと共に海上の森へ。岩木呂先生が考案した「昆虫が出すわずかな震動を草の葉や木の幹から音としてひろう、特殊なマイク」で、キアゲハの幼虫が葉を食

べる音、アリの鳴き声等、人の耳には聞こえないかすかな音を紹介。

驚く子どもたちの姿や「ちょっと虫に興味が湧いてきました」と話すお母さんの姿もあり、「音を通して昆虫たちの命の営み」を伝える放送となりました。

なお、夢中で一生懸命生きている昆虫たちの姿を音と映像で表現するため、岩木呂先生も演出に加わりました。

また、「音で体感、昆虫の世界」は8月9日(水)、NHK「ほっとイブニング」にて中部地方のみで放送された後、全国から選りすぐられた作品の中の1本となり、全国に放送されました。

●**第1回・教育機関へお勤めの方の集いを開催/同窓会**

8月26日(土)、本校を卒業され現在教育機関へお勤めになっている方を集め、A棟14階交流室で、「教育機関へお勤めの方の集い」を行いました。

この集いには、情報学科長 國立勉教授の他、神戸や広島など、遠方からご参加の先生方を含め、総勢15人ほどの教職員に参加していただきました。



この集いは、OB教員に対し、新たに設置した学科・専攻紹介や本学の教育内容についての意見交換等を行うためのもので、現在の本学PRの良い機会となりました。

後半は、澤岡学長、宮元同窓会会長にも加わっていただき懇親を深めていただくことができました。

これを機会に毎年開催し、大学とOB教員の繋がりをより強固にしていくことが決定されました。

●**「堀川エコロボットコンテスト」に参戦!**



8月27日(日)、「堀川を清流に」を合言葉に、「堀川エコロボットコンテスト」が開かれました。

コンテストには、幼稚園、小学校、高等学校、大学、企業など幅広い年齢層の方々に参加しました。昨年も、およそ20チーム

と多くのチームが参加したコンテストでしたが、今年はなんと倍の、およそ40チームが参加し大変盛り上がりしました。

本学のチーム、「大同工大 CEED-DAITO」は、吸い上げたヘドロ水を凝集剤により浄化させ、綺麗になった水を堀川に戻すロボット、「ヘドロ浄化ロボットウォーターエコ1号」を参戦させました。結果は、一般賞の「浄化賞」と、特別賞の「ものづくり奨励賞」に輝きました。メンバーの細川くん・丸山くん・三浦くん・見田くん・満仲くん・宮本くん(C06)、渡邊くん(O3C)、柳原くん(MC06)、佐伯さん(O4DZ)そして大東憲二教授(工学部/都市環境デザイン学科)、炎天下の中、本当にお疲れさまでした。おめでとう!



きょうだい・親子で DIT★

永田兄弟レポート

①DITに初めて来たときの印象は？

兄→大学ってこんなに狭いんだ。(まだ旧校舎で、大同校舎へ行った為)
弟→滝春の新校舎が目飛び込んできたので「きれいな学校だな〜」と
思っていた。

②DITを選んだ理由は？

兄→中学時代から工業系の学校に行きたかったこと、教職員の中に僕のこと
を知っている方が多数いたこと。

弟→就職率がよかったことと、兄が在学していたので大学の様子がいろいろ
と聞けたから。

③DIT、弟に勧めた？ 兄に勧められた？

兄→もちろん!!(高校に入る時にはDITに決めていたみたいだが)

弟→勧められた。「交通の便がいいよ」と。

④DITに決まり、弟の反応は？ 兄の反応は？

兄→ホッとしてました。

弟→「あんまり変なことをするなよ」と釘をさされた。

⑤最近交わしたDITの話題は？

兄→共通の先生の授業を受けていたためその先生の話。(教職の曾我先生、
田中先生)

弟→確か自分の研究の話だったかな？

⑥きょうだいでDIT、得たことは？

兄→教職員に顔を知っていただけのこと。

弟→得ているかは判らないが、兄を知っている先生から「永田の弟か!」と
からかわれた。特に曾我先生から。

⑦好きな学食メニューは○○です。→その理由

兄→喫茶&カフェのビビンバ丼、から揚げ、カツ丼→いまでもあの味が忘れら
れない。

弟→ゴビーホールのカレーライス。なぜかゴビーホールに行くといつもカレー
を頼んでいる。→値段の割にはボリュームがあっておいしい。

⑧DITのお気に入りスポット

兄→D棟1階入口(研究室がすぐ隣で、そこから見るB棟やゴビーホールが太
陽の陽に当たるときれい)

弟→白水校舎の中庭。なんだかんだ友達がいっぱいいるから。

⑨DITのココが一番いいところ!

兄→名古屋圏の工業大学で一番駅周辺に近い(帰りなどに寄る事が可能
だった)



職場にて
03EM 永田 和久さん(兄)



白水校舎の中庭にて
03A 永田 幸司くん(弟)

弟→先生(職員)と学生の距離が近い。

⑩DITのココが変???

兄→次々と学部や校舎が新設され、入学時と卒業時では雰囲気は全く変わっ
たこと。

弟→白水校舎では3年になるまで食べ物売られていなかったこと。

⑪○○先生感謝しています!→その理由

兄→岩間三郎教授、感謝しています。(関係:Aゼミ▶卒研▶修士の指導教員)
→僕が今は無き夜間主にて入学したときからの指導教員で、3年次の昼
間主編入から、卒業研究の指導教員、大学院に至るまで迷惑を掛けなが
らも指導していただきました。最後の1年間は研究が大変になりましたが、
そのことで一層成長できたと思います。

弟→甲谷さん(キャリアセンター)感謝しています。→インターンシップのと
きいろいろお世話になりました。就活中も相談に乗ってくれ、非常に助かり
ました。

⑫大学生活で一番の思い出は(卒業生)⇔大学生活で一番の思い出になりそ うなことは(在学生)

兄→大学2年次のアメリカ短期留学。いろいろな意味で、多くの体験が出来た
こと。

弟→サークル活動(建築サークル)。自分たちで立ち上げて、活動して、かけ
がえのない仲間が手に入った。

⑬DIT生活を漢字1文字で表すとしたら?→その理由

兄→『成』→将棋の「歩」が敵陣の三段目以内に入って「と金」と成るように、
私は何事にも積極的にチャレンジし前進を続けてきました。例えば、オー
プンキャンパスの手伝いや母校での卒業生と語る会や就職ガイダンス
における内定体験談等々、そして大学院2年の時、指導教員が体調を崩
されたので代理先生役として研究室の運営も務めました。様々な経験
が私の成長に繋がりました。

弟→「教」→サークル活動ではみんなに教える立場でもあったし、みんなから
も色々なことを教わったから。また、教職を通じて色々なことを教わり
ました。

⑭最後に一言、ご自由に…

兄→大学では多くの人(教職員)と知り合うことが出来、多くの友人にも恵まれ、
とても楽しかったです。様々な人間の考えに出会え有意義な大学でした。

弟→いろんな人と出会える機会。4年間しかないのだから皆さん精一杯楽し
んでください。

新任教職員紹介

副理事長/奥村 博司



大同工大に今在る学生および教職員のみなさん、
この度、縁あって大同学園に勤めることになりました
奥村です。私は長年、企業人としていろいろな事業・
業務にかかわると共に住いも転々、単身赴任も12
年という丈夫な男です。これから長いおつき合いに
なりますがよろしく。さて、世界は'90年の初めにソ
連邦およびベルリンの壁が崩壊して東西というシー
ソーが一気に傾きました。それ以降、シーソーは平衡状態になろうとして、
さながら水が高きから低きに流れるように変化しています。一方、日本では
バブルの崩壊とその後の長い景気低迷(構造変化への圧力)を経て、よう
うかが見え始めたところです。世界は国境を超えた競争と協調を模索
しています。当然、大学もこの世の流れから逃れることはできません。私
は大同工大の特長をより強化し魅力ある学び舎にすべく、高い志を持つみ
なさんと共に努めてまいります。

人事

就任/H18.8.30付

●理事

奥村 博司(大同学園副理事長 兼 大同工業大学学長付
兼 大同工業大学大同高等学校校長付)

退職/H18.7.31付

●大学

＜教育職員＞

宮元 健次(工学部 建築学科 教授)

(社)自動車技術会主催

全国学生フォーミュラー大会出場メンバー求む!

平成19年9月に開催される全国大会にエントリーする車両の製作を
平成18年11月より開始します。

興味のある皆さん、少し詳しく話を聞いてみたい皆さんは、プロジェクト担
当の鈴木桂輔助教【工学部/機械工学科・機械工学
専攻】(ksuzuki@daido-it.ac.jp)まで連絡を。

※機械工学科・情報機械システム工学科の3年生につ
いては、今年の11月より卒業研究の一環として車両の
製作を開始します。



編集後記

■昨年まで就職指導を担当していたこともあって、企
業の方と話す機会が多い。話題の中心は卒業生だ。
多くの方がこう言ってくれる。「大同の学生はコツコツとまじめに取り
組んでくれる」と。まさに「まじめ」はDITの武器だ。

■プレゼンしている学生の顔、イキイキしていて、キラリと輝いている。
実に羨ましい。大学を卒業して9年にもなるが、未だに「大学時代に戻
りたい」と考えてしまう程だ。常に学生たちからの刺激を受けながら、
生活できている自分を幸せに思う。

■前回のNo57号から、卒業生のみなさまにもこの「DAIDO CAMPUS」
を送らせていただいております。どうぞ、ご意見・ご要望、更には「ネ
タ」がありましたら、ご連絡方よろしく願います。みなさまの
参加型ツールを目指しています。

大同工大キャンパス 編集長 伊藤雅士